

2017年9月28日9:00-11:00に、明晴学園中学部生12名(中1から中3)はギャロデット大学のCAN(国を越えた対話)プロジェクトに参加しました。手順は以下のとおりです。

- (1)ギャロデット大学から与えられた説明のDVDに日本語字幕を付けたものを見る。与えられた課題が日本語訳されたパワーポイントを見ながらファシリテーターの説明を受ける。
- (2)2つのグループ(生徒6人+先生2人)に分かれて与えられた質問に対して討論を持つ。
- (3)で回答をまとめ、各グループの代表が全員に日本手話で報告する。

以下が各グループのメモと回答です。

1. あなたの学校でのコミュニケーションとして、ベストな状況を教えてください。
また、あなたの学校での、言語とコミュニケーションを使うときの理想的な状態とはどのようなものでしょうか。

- ・ベストな学校はすべてが手話で話せる学校。すべてがわかる、伝えられる。
- ・バイリンガル・バイカルチュラルな学校で、世界のろう者と交流し、視野が広げられる。
- ・聴の先生は手話が100%でなくても大丈夫。無理をしなくてよい。でも火事の時などに必要。しかし、それでも対応手話でなく日本手話を使ってほしい。対応手話は日本語借用だから、分かりにくい。手話ができなければ筆談をするとか、通訳を使うという方法がある。

(注:明晴学園の授業に入っている通訳は日本のトップクラス)

- ・ろうと聴の教員数は半々がいい。ろう文化のみでなく、聴文化を学ぶことでその後の社会との関わり方がわかる。

2. 普段、学校では日本手話と日本語はどのように使われていますか?

教室や寮、放課後(部活動など)、その他も含めたそれらの場では、日本手話と日本語がどのように使われていますか?

- ・学校ではすべてが日本手話で行われる。日本語は記録をとったり、外部とのコミュニケーションのために使われる。
- ・寮はない。放課後活動もろうのコーチが来てくれるので手話でOK。家庭内では、親は手話ができの方がいい。父親は母親が通訳してくれることもあり、出来る範囲でよい。

3. (A)学校では、日本手話と日本語を使っていると思いますが、日本手話を使うと効果的なところと、有利なところがあると思います。それらは何ですか?効果的に手話を使うためのサポートがありますか。また続けてほしいサポートがあれば、どのようなものですか?

- ・手話の利点はすべてが分かって伝えられること。(注:学校内では手話を使う際の障害要因はない。⇒学校内では誰もが日本手話で伝え合うことができる。)
- ・ろう通訳(先生がすることが多い)があるのがよい。外部のお客さんの講義などの際には聴者の通訳者がつくが、それをろうの先生が通訳してくれるのでわかりやすい。
- ・手話をうまく使うための方法としては、明晴には手話科があり、そこで手話の文法や歴史も学ぶ。それが手話をきちんと使うことの助けになると思う。
- ・手話を使うためのサポートとしては電話リレーサービスなどもある。

(B)同じように、日本語を使うと効果的なところと、有利なところがあると思います。それらは何ですか？効果的に日本語を使うためのサポートがありますか。また続けてほしいサポートがあれば、どのようなものですか？

- ・日本語を使うことのメリットは記録に残せる、本が読める、手話を知らない人とコミュニケーションができること。
- ・明晴では「日本語を使うこと」に対し、先生が丁寧に直したり指導してくれるので、社会に出る前に、しっかりここで身に付けたい。
- ・分からない日本語があると、先生が日本手話で詳しく説明してくれる。
- ・日本語をうまく使うための方法としては字幕付きのテレビを見る、ラインで友だちとたくさん話す、漫画や本を読むことなどがある。はじめは間違っているけどだんだん自然に正しく書けるようになった。また、ラインは間違ったと思ったらさかのぼって確認したり直したりできるので良い。
- ・手話を学びたい聴者がろう者と交流することで手話を身につけられるように、ろう者は聴者と交わることで日本語を覚えられると思う。どちらも環境が大事。
- ・手話を使うためのサポートとしては電話リレーサービスなどもある。

<その他>

- ・日本中に明晴のようなろう児が学ぶ権利がしっかりと保障される学校が広がってほしい。
- ・今自分たちはとても恵まれた環境の中で暮らしており、それは大変な財産なので、後輩にもきちんとつないでいきたい。そのための手段としてはテレビにPRを出したり、医者に説明に行ったりするのがよいのではないかな。
- ・そういう活動は、実際にバイリンガル教育を受けた自分たちの役割であると思う。
- ・明晴学園は安心できる自分の家のような場所である。卒業してもいつでも帰ってこられて、話ができる場所である。ずっとそうあり続けてほしい。